



# 軽防協ニュース速報（号外）

2020年9月9日  
軽種馬防疫協議会 事務局  
(JRA 馬事部防疫課)

## マレーシアにおけるアフリカ馬疫の発生について

マレーシアで、初めてアフリカ馬疫の発生が報告されました。現在のところ、タイでの本年2月以降の発生との関連性を示す確定的な証拠はありませんが、地続きの隣国における東南アジアでの2例目となります。

### 発生状況

8月上旬から中旬にかけて、5頭飼育されている施設（backyard horses、品種不明）の4頭が、臨床症状（跛行、呼吸困難および発熱）を示し、RT-PCRでアフリカ馬疫陽性と判定されました。8月31日に、再度、それら5頭を検査した結果、すべての馬が陽性と判定され、9月2日にOIEを通じて本発生が報告されました。現在のところ、流行ウイルスの血清型（9つに分けられる）等は不明です。今回の発生場所（テレンガヌ州）は、タイとの国境より約200km離れています。タイにおける公式最終発生（6月16日）の場所（バンコク近郊）からは約1000km離れています。また、マレーシアに最も近い発生場所（プラチュアップキーラーカン県）とは約880km離れています。本症を媒介するヌカカは、陸上では150～300km（山などの地理的バリアの有無による）、水上では700km移動できるとされています。

流行ウイルスの分析結果が未公表ですので、今回のマレーシアでの発生が新規にアフリカ大陸等の常在地から侵入したのか、あるいは先のタイでの流行（血清型は1型）に関連したものは不明です。本症の馬の致死率は50～90%とされており、タイにおける流行では約93%と報告されています。従いまして、今回のマレーシアにおける発症馬5頭中死亡馬が0頭という情報（安楽死予定）を鑑みますと、致死率が通常よりも低いように見受けられます。タイでは弱毒生ワクチン（1, 3および4型を含む）が様々な地域（27県）の延べ9,500頭以上に接種されました。4月7日付本協議会



英国 環境・食料・農村地域省 HPより引用(改)

速報（号外）でも紹介しましたように、本ワクチンの欠点として、ワクチン株と野外流行株との間で交雑が生じ、病原性復帰したハイブリッドウイルスが出現する可能性が知られています。この観点からも、今回のマレーシアの流行ウイルスに関する詳細な情報が待たれます。

なお、日本とマレーシアとの間における馬の移動のための輸入衛生条件はありません。